

【令和5年度版】 札幌北中学校の評価・評定について

陽春の候、保護者の皆様にはますます御健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より、本校の教育活動に対しまして、深い御理解と温かい御協力をいただき感謝申し上げます。

さて、現行の学習指導要領では、知・徳・体にわたる「生きる力」を生徒に育むために、「何のために学ぶのか」という学ぶ意義を各教科等で共有しています。また、全ての教科等の目標及び内容が「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」という資質・能力の三つの柱の育成へ向けて整理されており、生徒の発達の段階や特性を踏まえ、三つの柱の育成をバランスよく実現し、適切に評価することができる教育課程の編成が求められております。

本校では「生命を尊重し逞しさと豊かさをもって生き抜く人間の育成」を学校教育目標とし、学習面では「分かる、できる、楽しい授業」や「自分への自信をもたせるきめ細かな指導の充実」を目標に日々生徒への支援・指導を進めています。

ここでは、本校の教育課程（教育のすすめ方）の内、主に学習面、特にその達成状況を見取る評価・評定の方法について概要をご説明します。

授業について

授業時数

◆令和5年度の授業時数 ※1単位時間（1コマ）は50分（上段：週時数、下段：年間時数）

	教 科									道徳	特活	総合的な学習	総授業時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	英語				
1年	4	3	4	3	1.3	1.3	3	2	4	1	1	1.4	29
	140	105	140	105	45	45	105	70	140	35	35	50	1015
2年	4	3	3	4	1	1	3	2	4	1	1	2	29
	140	105	105	140	35	35	105	70	140	35	35	70	1015
3年	3	4	4	4	1	1	3	1	4	1	1	2	29
	105	140	140	140	35	35	105	35	140	35	35	70	1015

評価・評定について

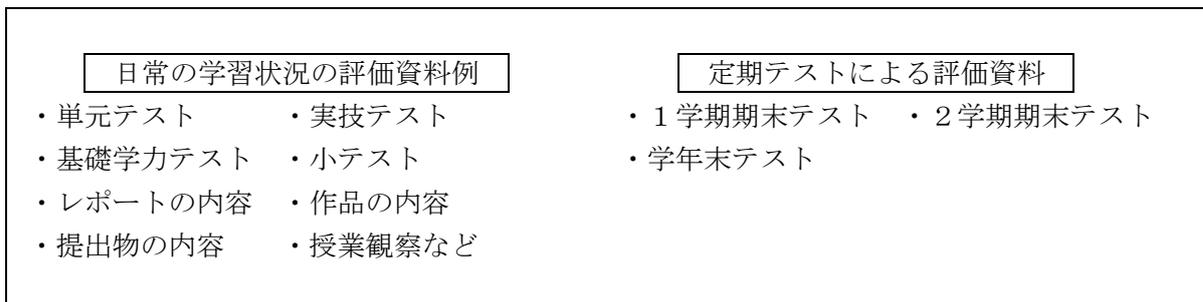
1 目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）

学習評価は、学校における教育活動に関し、生徒の学習状況を評価するものです。「生徒にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにすることをねらいとしています。各教科で設定された目標に対し、「どれくらいできる(分かる)ようになったか」を3観点ではかり(評価)、それを総括して本校の基準に照らし合わせて、「5・4・3・2・1」の数値(評定)でお知らせしています。各段階の評定における人数の制限はありません。

※観点については、「3. 評価・評定の具体的な方法」参照

2 各教科の評価・評定の大まかな流れ

毎日の授業の「日常の学習状況の評価結果」や「定期テスト」の観点別の評価結果により、総合的に評定を出します。



枠内のような評価資料をもとに、各教科で定めた規準に照らし合わせて学習の達成状況を観点別に評価します。(A・B・Cの3段階)



観点別評価の結果を総合し、札幌北中学校の基準に照らし合わせて評定を決定します。

(5・4・3・2・1の5段階)

※1学期期末、2学期期末、学年末テストでは、国語、社会、数学、理科、英語の5教科のテストを各100点満点、計500点満点で実施します。

※基礎学力テストでは、国語、社会、数学、理科、英語の5教科のテストを各20点満点、合計100点満点で実施します。

※音楽、美術、保健体育、技術・家庭は、定期テストは実施いたしません。

3 評価・評定の具体的な方法

(1) 各教科の観点(3観点)に従って、「A・B・C」で評価します。



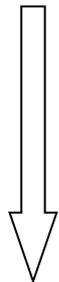
各教科の観点は、3観点で設定されています。
それぞれの観点について、どういう場面でどのように評価するか（何を評価資料とするか）を各教科で示します。

例 <社会科の評価資料・評価場面>

	観点の内容	主な評価の資料・場面
観点1	知識・技能	定期テスト、単元テスト、ワークシート、ノート レポート など
観点2	思考・判断・表現	定期テスト、単元テスト、ワークシート、ノート レポート など
観点3	主体的に学習に 取り組む態度	ワークシート、ノート、レポート など

※定期テストだけではなく、日常の取り組みが大切です。

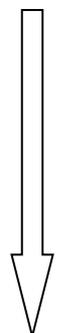
(2) それぞれの観点において、各教科の観点別評価基準(目標)に照らし合わせて、達成の程度を判断し、評価を決定します。



75%以上達成し、目標を十分達成できた … A
50%以上達成し、目標をおおむね達成できた … B
50%未満で、努力を要する … C

※全教科統一の数値です。

(3) 各教科の観点を総合(合計)して、5段階評定の基準に照らし合わせて、達成の程度を判断し、評定（「5・4・3・2・1」）を出します。



85%以上達成し、特に満足できる … 5
75%以上達成し、十分満足できる … 4
50%以上達成し、おおむね満足できる … 3
25%以上達成したが、努力を要する … 2
25%未満で、いっそう努力を要する … 1

※全教科統一の数値です。

4 評価期間

- (1) 国語、社会、数学、理科、英語の5教科は、1学期、2学期、3学期の三期制で評価・評定を行います。1・2学期通知表では、各学期の評価・評定をお知らせしますが、学年末の通知表では、1学期、2学期、3学期の1年間の学習の達成状況を、学年末評価・評定として通知します。
- (2) 音楽、美術、保健体育、技術・家庭の4教科は、前期・後期の二期制で評価・評定を行います。この4教科については、週あたりの授業時数が1～2時間と少なく、十分な学習時間の確保と、学習の達成状況を見取る時間の確保のため、三期制ではなく二期制を採用しています。前期通知表では、前期の評価・評定をお知らせしますが、学年末の通知表では、前期、後期の1年間の学習の達成状況を、学年末評価・評定として通知します。

6 道徳の評価

学年末の通知表にて文章による評価をお知らせします。数字や記号による評価・評定は行いません。

7 総合的な学習の評価

学年ごとに設けられたテーマに沿って、学年末の通知表にて文章による評価をお知らせします。数字や記号による評価・評定は行いません。

8 通知の方法・形式

1学期の終業式、前期末（10月）、2学期の終業式、学年末（3年生は卒業式、1・2年生は修了式）に通知します。

音楽、美術、保健体育、技術・家庭の前期評定は、前期末（10月）に通知します。

9 その他

各教科の評価・評定計画を本校ホームページへ掲載予定です。